

「クロマグロ等の海水魚養殖の完全養殖技術による産業化」

家戸敬太郎、澤田好史、岡田貴彦、倉田道雄、向井良夫、宮下 盛、村田 修、熊井英水(近大・水研)

「マリンメタゲノム解析とその応用」

竹山春子(早稲田大・理工)

※詳細は後日掲載

1.JBA 新資源生物変換研究会シンポジウム「バイオリファイナリーの今、そして未来」

日時：平成23年6月17日(金)13:00～18:00

於：講演会—神戸大学百年記念館(六甲ホール) 懇親会—瀧川記念学術交流会館

主 催：JBA新資源生物変換研究会、神戸大学統合バイオリファイナリーセンター

※詳細レポートはこちら→ [PDF 935KB \(H23.11.8更新、会員限定\)](#)

化石燃料をもとに発展してきたこの世界から、食料生産と共存し、しかも食料生産と競合しない環境と調和した新しいバイオテクノロジーを基盤とする循環型の世界へのギアチェンジが、バイオテクノロジーの使命として求められている。これまでの化石燃料依存の産業構造と決別し、環境保全を基盤とする産業構造へ変えるという基盤形成変化の推進が重要である。化石燃料からの脱却による、地球環境保全を基盤とするサステナブル社会の構築には、これまで以上に、生物工学技術の叡智と革新が強く望まれている。そこで、現在、この分野でご活躍の先生方の研究コンセプトと成果を披露していただくこと企画した。

企画後、日をおかずに発生した東日本大震災の影響で、春の日本農芸化学会中に開催予定のシンポジウムが中止となり、本研究会としてのシンポジウムは8ヶ月ぶりとなった。

学生50名を含む参加者171名を得て、質疑応答では若い方の発言も目立った。

マスメディアの取材もあり、予定時間を超えた熱い議論が交わされ、盛会のうちに終了した。講演の大部分は後日、会員限定でビデオ配信する(無償)。

懇親会では、眼下に広がる神戸の美しい夜景を眺めながら、これからのバイオリファイナリーと大震災後の日本のあり方についての熱心な語らいが続いた。



【座 長】 近藤昭彦(神大工)、植田充美(京大農)

【講 演】

「はじめに」 福田秀樹(神戸大学学長)

「海洋珪藻の次世代バイオ燃料への応用」 田中 剛(東京農工大・院・工)

「合成生物学によるバイオ燃料生産のための微生物細胞工場の創製」

蓮沼誠久・近藤昭彦(神戸大・自)

「コリネ型細菌の潜在能力を活用したバイオ燃料・化学品生産技術の開発」

乾 将行((財)地球環境産業技術研究機構)

「3-ヒドロキシプロピオン酸と1,3-プロパンジオールの併産」

向山正治・堀川洋(日本触媒 GSC触媒技術研究所)

「キリンホールディングスでのバイオリファイナリーへの取組み～仕込み粕を用いた」

バイオエタノール生産からCandida属酵母を使った乳酸生産まで～」

吉田 聡・生嶋茂仁・玉川英幸・大澤 文・足海洋史・小林 統

(キリンホールディングス フロンティア技術研究所)

「再生可能資源から高性能バイオポリマーを

“一気通貫”合成する微生物工場の開発」

田口 精一(北大院・工)